

2016 年 12 月吉日

アンケートのお願い

---電気電子情報系学会間の連携・協働について---

2015 年 12 月 電気電子工学委員会公開シンポジウム
パネリストの先生方各位

日本学術会議 第 3 部
電気電子工学委員会
委員長 吉田 進
副委員長 保立和夫
幹事 大西公平、波多野睦子

前略 時下益々御清祥のこととお慶び申し上げます。さて、昨年 12 月 22 日に日本学術会議講堂にて開催されました公開シンポジウム「電気電子工学分野の更なる活性化に向けて - 学界と産業界それぞれの役割と連携の在り方 - 」につきましては電気電子情報系の 8 学会のご協力を得まして、現会長、前会長あるいは元会長の皆様方にパネリストとして御登壇頂き、各学会の現状や課題、更なる活性化に向けた取り組み等について御高話賜りました。改めて厚く御礼申し上げます。

その後、少々時間が経過してしまいましたが、そのフォローアップとして、電気・電子・情報関連産業の変容・多様化しつつある現状を背景に、電気電子工学委員会内で今後の活動について議論しました結果、当該分野の更なる活性化に向けて、学協会との連携を強化し、今後の電気電子関係学会間の連携・協働の在り方や可能性を探るべく検討を進める必要があるのではないかと認識に至りました。

つきましては、お忙しいなか大変恐縮でございますが、皆様が主に関係しておられる学会の一会員としての立場から、電気電子情報系学会間の連携・協働にかかわるアンケート調査項目につきまして、ご意見をお伺いできましたら幸いです。(なお、ご回答内容は電気電子工学委員会内のみの扱いと致します。) 大変恐れ入りますが、取りまとめの時間が必要ですのでご回答の締切りを 12 月 20 日 (火) とさせて頂きたく、宜しく願い申し上げます。

ご回答は個人や学会名が特定されないようにして、今後の電気電子工学委員会の取りまとめ資料に反映させます。また、作業が想定通りに進みますと、その資料は日本学術会議内の所定の手続きを経て、関係学会や社会に向けて、電気電子工学委員会からの「報告」として公表するとともに、日本学術会議のホームページ上でも公開することを計

画しております。

何とぞご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

草々

追伸： 御回答は本用紙に記入いただいても、回答のみをテキスト形式にして添付ファイルあるいは直接メール本文にしてお送りいただいても結構です。日本学術会議第3部電気電子工学委員会幹事 大西公平 (ohnishi@sd.keio.ac.jp) および波多野睦子 (hatano.m.ab@m.titech.ac.jp) 宛にご返信願えれば幸いです。

なお、ご参考までに、現在（第23期）の電気電子工学委員会の構成員は以下のURLをご参照ください。

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/bunya/denki/kousei.pdf>

【アンケート調査用紙】

1. 電気電子情報系学会の連携・協働に関するお尋ね

電気・電子・情報関連産業の変容・多様化しつつある現状を背景として、昨年の公開シンポジウムでも多くの御発表で国内の電気電子情報系学会の連携や協働に関する御提案がございました。電気電子情報系学会では専門分野別に学会があり、すぐれた御活動により当該分野の著しい発展に大きな貢献をなさってきたことは周知の通りであります。その一方で、細分化されすぎているため、少し分野が異なる研究成果の発表場所が見つからないとか、学際的な研究開発を行った場合には発表学会に迷うことは珍しくありません。加えて、複数の学会で活動を行おうとしますと、経済的な負担増のみならず、シンポジウム、学術講演会などのイベントでテーマや日程の重複が発生する場合もございます。このような背景の中で、他の国内電気電子情報系学会と連携・協働を進めることについて、どのようにお考えでしょうか。

なお、連携・協働と一口に言いましても、“緩い”連携・協働から、比較的密な“強い”連携・協働に至るまで、さまざまな形態が考えられます。ここでは、まず具体的な項目を取りあげまして、皆様が主に関係しておられる学会の一会員としての立場から、個々の項目について連携・協働が望ましいかどうか、またそのように考えられる理由につきまして簡潔にお答えいただきますとともに、自由記述欄にも忌憚のないご意見をお聞かせください。（国際的な連携・協働については次の項目でお尋ねします。）

① 若者へのアウトリーチ活動やリフレッシュ（リカレント）教育、人材育成など

連携・協働が 望ましい

理由：受け取り手（若者）のニーズにマッチする内容にするために必要であれば、連携・協働することが望ましい。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
広い意味で、J A B E E活動はこれに該当するかもしれません。

② 社会に向けた広報活動（様々な情報発信や意見表明）

連携・協働が 望ましい

理由：分野横断的な課題を含む大きな災害・社会的問題が発生した時には、一定の効果が期待される。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
東日本大震災発生後の防災・減災に関する検討会や各種提言

③ イベント（講演会、大会など）の共同開催

連携・協働が 望ましい

理由：ある特定の境界領域の活動について、他学会と連携・協働することは上手くゆく場合があります。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
平成13年度頃まで、電気、電子情報通信、照明等の学会は年会を共同開催していましたが、個別分野（部門）毎の活動に軸足が移行し、内容が不活発化したため各学会単独の年会に移行した経験があります。

その一方で、センサー・マイクロマシン部門の大会は、応用物理学会、機械学会の関係分野（部門？）との共同開催を行い活性化しています。

④ 産学連携支援活動

連携・協働が 望ましい

理由：旧来は業界と学会の対象分野が一致している場合が多かったが、急速な情報化をベースとする事業環境の変化、産業構造の変化が起きており、分野横断的な産学連携の必要性は高まっている。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
特になし。

⑤ 学会共通で利用可能な投稿論文査読・管理システムの開発

連携・協働が 望ましい

理由：学会間の論文投稿・査読ルールの違いが課題となるが、学術会議のような公的機関が運営する共通システムが利用できることにより、財政負担軽減、業務簡素化等のメリットは大きいと想定される。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
特になし。

⑥ 投稿論文査読者データベースの共通化

連携・協働が 望ましい

理由：査読者（学識経験者）は、複数の学会に所属・活動している場合も多いと思われるので、本人了解を前提として複数分野に登録するような仕組みはありうるかもしれない。

⑤の共通システムとのセットが前提と思われる。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
特になし。

⑦ 電気電子情報系ジャーナルや論文誌等の共同出版

連携・協働が 「望ましい」 かどうか判断に迷う。

理由：利用者にとってジャーナルや論文誌の対象範囲が広がることは、①関心のある個所が少なく利用価値が下がる、②幅広い情報が得られて利用価値が高まる、①②の何れになるか。一人ひとりニーズが異なるので、技術者・研究者万人が満足できる形ができるでしょうか。適度に小分けされたメニューなアラカルトで必要なものを選びやすい状態が望ましいのかもしれませんが。

どのような共同が良いのか、各学会の会員ニーズを調べる必要があるように思います。

学術情報以外の、会告や会員向け情報（ジャーナルの半分程度を占める）は各学会固有部分なので、共通化のメリットはないと思われませんが、電子化による効率化が可能かもしれません。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
特になし。

⑧ IEEE Xplore に相当する日本独自の論文データベース・検索システムの共同開発

連携・協働が 望ましい

理由：日本の学術情報が一元化することによるプレゼンス向上や、IEEE に対する交渉力向上に寄与することが期待されます。運営主体、運営ルール、費用分担を明確にする必要があります。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
特になし。

⑨ 標準化や規格化活動

連携・協働が 「望ましい」 かどうか判断に迷う。

理由：IEEE のような Name Value のある新規規格体系が日本規格のプレゼンス向上に結び付くなら意味があると思われませんが、JIS と同等の国家規格として認知していただく必要があります。日本企業の事業戦略に馴染むかどうかわかりません。

規格活動の民間への移行の動きもある中で、運営主体、運営ルール、費用分担を明確にする必要があります。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
特になし。

⑩ 支部活動

連携・協働が 望ましい

理由：支部運営の効率化に結びつく可能性がある。

複数の学会間で既に実施中の具体的な事例をご存知でしたらご教示ください：
電気学会の東京以外の8支部は、他の電気情報系学会と共に連合大会を毎年開催し、長年の実績がある。一部の支部は、支部事務局を共同運営している例がある。

⑪ その他（自由記述欄）

2. 学会の国際化対応について

2-1 [国際的な企画、イベントなど]

皆様が主として関係なさっている学会で定期的に実施している国外向け事業（定期的に主催している国際会議があればそれを含む）について御紹介下さい。その主な目標、ならびに現時点での目標達成状況についても差し支えの無い範囲でお聞かせください。

また、電気電子情報系学会間で連携・協働を行う可能性については、どのようにお考えでしょうか？

電気学会の主な国際会議は以下の通りです。

部門	国際会議名称・概要		備考
全体	ICEE	アジア近隣での電気関連学会会議	中国・韓国・香港・日本 4か国回り持ちで毎年開催
	ISPSD	パワー半導体デバイス、ICに関する国際会議	IEEEと共催 毎年開催、3～4年毎に日本開催
A部門	ISEIM	電気産業材料の国際シンポジウム	IEEEと共催 3年毎に日本開催
B部門	IWHV(A/B部門)	・高電圧工学国際ワークショップ	2年毎に日本開催
	GD(A/B部門)	・気体放電とその応用	2年毎に開催 2016日本開催
C部門	BMEiCON	・バイオ医療国際会議	毎年アジア各国で開催
	ACIS	・アジア情報システム会議	
D部門	IPEC	・国際エレクトロニクス会議	IEEEと共催 毎年開催、4年毎に日本開催
	ICEMS	・電気機器システム国際会議	IEEEと共催 毎年開催、3～4年毎に日本開催
	LDIA	・産業応用の国際シンポジウム	2年毎に世界各国で開催
	SAMCON	・IEEEワークショップ	毎年日本開催

電気電子情報系学会間で連携・協働を行う可能性については、今のところ具体的なアイデアはありませんが、可能性はあると思います。

2-2 [英文刊行物（ジャーナルや論文誌）について]

皆様が主として関係なさっている学会で発行されている定期刊行学術誌（電子出版も含む）のうち、英文の記事や論文を収載するものがあるでしょうか。もし、英文論文誌を発行されている場合、何種類あるでしょうか。（差し支えなければ個々の impact factor についてもご教示ください。）

また、英文刊行物（ジャーナルや論文誌）について、電気電子情報系学会間で連携・協働を行う可能性については、どのようにお考えでしょうか？

電気学会が発行している英文論文誌は以下の通りです。

論文誌(雑誌)名	SCI	2015年のIF	発行頻度	年間論文件数 (2015年)	年間論文ページ数 (2015年)	公開方法
IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering (TEEE) (J共通英文論文誌) 発行: 2006年5月～ SCI登録: 2009年6月	登録済み	0.261	隔月	125件	913	Jhon Wiley 購読契約
IEEJ Journal of Industry Applications (英文論文誌D) Thomson Reuters の Emerging Sources Citation Index(ESCI)には登録されている。	(ESCI)		隔月	113件	859	オープンアクセス

IF はあまり誇れる値ではありません。ここ5年の平均で約0.3です。

電気電子情報系学会間で連携・協働を行う可能性について：

学会国際化の一環として共通英文論文誌の今後の展開方法を検討中であり、今のところ英文論文誌の発行について他学会との連携・協働を行うことを検討する状況にはないと考えております。

2-3 [IEEEとの関係]

電気電子情報系分野には世界で最大級の学会（学術団体）であるIEEEがあり、その運営は国内の電気電子情報系の諸学会にも大きな影響を与えています。学会の国際化を考えると必ずと言って良いほどIEEEとの何らかの干渉あるいは重なりが出てきます。例えばIEEEのExploreは膨大な論文を所蔵しております。一般にIEEEとの関係は、ある場合は協調になり、ある場合は競合になるなど複雑です。

皆様が主として関係なさっている学会では今後IEEEとの関係をどう築いて行か

れようとしておられるか、個人的なお考えで結構ですので、是非お聞かせください。

(注：学会によっては、関係が深い海外の学会が I E E E 以外のところもあります。その場合は、その最も関係が深い海外の学会との関係についてご回答ください。)

I E E E とは包括的交流協定を結んでいる他、各部門は関連ソサエティーと国際会議の共催等を通じて長い期間交流を継続しています。

I E E E 共催の国際会議においても、著作権、Xplore 掲載、収益の確保等について交渉を行い、日本開催の場合はこれらを確保するよう努力しています。

2-4 その他

皆様が主として関係なさっている学会のほうで、上記以外の国際化対応案件がございましたらご記入ください。また、その案件につきましても、関係学会間の連携・協働の可能性についてご意見をお聞かせいただけましたら幸いです。

特になし。

3. 日本学術会議電気電子工学委員会へのご意見、ご要望について

電気電子情報系分野の課題解決、そして更なる活性化に向けて、日本学術会議の電気電子工学委員会としては少しでも貢献できればと願っております。

つきましては、電気電子工学委員会が今後どのような活動をすべきか、是非とも忌憚のないご意見やご要望をお聞かせ願えましたら幸いです。

日本として電気電子工学の発展をどのように主導していくか、関係学会、内閣府、JST、産総研、理研などと連携をとって議論できるような雰囲気、電気電子工学委員会が仲介役となって作れるようになってほしいと考えます。